

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地	0947-48-3222	
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果確定日	平成25年12月06日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福智町のほぼ中心部にあるため地域の行事等に参加したり見学することができます。そのため多くの住民と交流できる環境にあります。できるだけその機会を持ち、ゆっくりと生活ができ安心して暮らせるように地域の方々とも支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR金田駅に近い利便性の良い場所に、福智町役場、小学校、保育園、コミュニティーセンター、交番等に隣接し、病院を改築した3ユニットのグループホームである。開設11年目を迎え、運営推進会議を活かした、地域との交流も少しずつ前進し、ホーム正面のコミュニティーでの行事や山笠を毎日見物し、ホームの花火大会には、近所の子供や地域の方が集まり、地域住民との交流も始まっている。利用者の健康管理は、居宅療養管理指導を活用し、提携医療機関と看護師が連携し、介護職員の細やかな見守りで、早期治療に結び付き、医療連携体制が確立されている。また、地域の高齢化に伴い、介護や食事、認知症についての相談があり、丁寧に話を聴いて説明し、地域住民の相談窓口として、信頼されるグループホームなごみ苑である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成25年11月19日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関入り口に掲示し朝礼後全員で唱和している。	なごみ苑独自の、地域密着型理念を玄関に掲示し、毎朝朝礼で職員が唱和し理解して、利用者の残存能力を活かしながら、利用者一人ひとりの力を引き出し、感動や喜びの中で、日々の暮らしが充実したものになるように取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の組に加入し近くの商店から苑で使用する物は購入し、その地区の一人として参加できることは参加して交流している。	町内会に加入し、集会所が、ホームの正面にあるので、山笠を玄関に出て見学したり、地域の商店で買い物をして、配達してもらっている。なごみ苑だよりを地域の方に配り、認知症の啓発活動を行い、少しずつグループホームの内容を理解してもらい、協力関係が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の区長や老人会に対して苑だよりを毎月発行し認知症の人の理解や支援について活かしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開かれ、利用者の現状、介護度等を報告、理解してもらいサービス向上に活かしている。	会議は、家族代表、区長、民生委員、行政職員が参加し、事業所運営や取り組み、問題点を報告し、参加委員からは、要望や質問、情報等出され、意見交換がされている。行政参加で開催する会議を活用し、内容の充実と、マナー化を防ぐ会議として、ホーム運営に反映させる会議になるように、検討をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、推進会議以外に保険証の更新時、その他町での行事で施設の実情や取り組みを伝えている。	管理者は、書類の手続きや疑問点、困難事例等を、すぐ近くの福智町役場に相談し、アドバイスをもらい、協力関係を築いている。運営推進会議に、行政職員が出席し、事業所の実情や取り組みを理解してもらい、意見を出してもらい、連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については禁止の対象となる具体的な行為について職員の間で月々の勉強会で理解してもらい実践に取り組んでいる。	毎月の勉強会で、職員は、身体拘束が利用者にも与える弊害について学び、理解をし、拘束をしないための介護について、話し合い、常に意識して、利用者にも優しく声掛けし、スピーチロックも含めて、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、常に排泄のケアや入浴時の体の状態等十分に注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては継続的に勉強会で学習し職員ひとり一人が理解、学習していく。	職員は、研修会の中で、成年後見制度や日常生活自立支援事業の重要性を認識し、内容を理解し、利用者や家族には契約時に説明し、理解してもらっている。また、利用者や家族が、制度を必要とする時には、資料やパンフレットで、制度の仕組みや、権利について説明し、手続きのための関係機関への橋渡しが出来体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に重要事項の説明や施設での生活について質問、疑問等十分説明をし理解・納得してもらっている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望等はいつでもだしやすい体制を作り受け入れ、反映させるよう努力している。	家族の面会や行事参加の時に、利用者の生活状況や健康状態を報告し、家族との世間話の中から、要望や意見を聞きとっている。また、面会に来れない家族とは、なごみ苑だよりと一緒に、利用者の日ごろの様子を書いて送付し、電話や手紙で家族の意見や要望、心配事等を聞き取り、ホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はその都度聞いてすみやかに反映させるようにしている。	毎月の職員会議を、勉強会やモニタリングを兼ねて実施し、管理者は、職員が意見や要望を出しやすいように、また、会議が堅苦しくならないようにして、活発な意見交換会になっている。出された意見は、出来るだけ速やかに、ホーム運営に反映出来るように努力し、職員のやる気を促している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や個々の職員の努力や実績、勤務状況を把握し働きやすい環境を作っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に排除してはいない。職員についても自己実現の権利は保証されるよう配慮している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や、働く意欲のある方を優先して採用している。採用後は、新人教育や、スキルアップ研修を法人全体で取り組み、資格取得のための、支援体制も整っている。また、職員の特技や、意欲を仕事上で活かすための勤務体制や、生き生きと働けるための環境整備に努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員の勉強会で人権等の啓発に取り組んでいる。	職員会議の中で、利用者の尊厳を守り、生きがいのある暮らしの支援を推進するための、介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、ゆっくりと耳元で、他の利用者にも聞こえないように、配慮して話すようにし、利用者との信頼関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はその時々に応じて進めている。実践でもトレーニングしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は毎月のグループホーム協議会の中で交流している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が新しい施設での生活をする前に今までの生活状況、今後の要望等を話し合っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族にも今後の生活にあたっての不安、要望等を話し合っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話でその他のサービスについても説明し対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体の状況を見極めその人にあった関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もいつでも面会で共にレクリエーション等で絆を深めていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大事にしこれからもいい関係が継続できるよう支援している。	入居年数が長くなると、家族や友人、知人の面会も少なくなるので、面会に訪れた方には、ゆっくり話せる場所やお茶等を提供し、いつでも面会出来るように対応している。また、地域の商店で出来るだけ買い物し、昔馴染みの関係を継続し、利用者が大切にしてきた、馴染みの関係継続に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者本人の状況に合わせてお互いが支えあえるような環境を作っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に努めているが現実には終了後はほとんど接触が無い。今後は本人経過についても支援に努めたい。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握は難しいけれども本人の希望に添えるよう家族共に検討している。	職員は、利用者が今まで大切にしてきた人や場所をアセスメントで把握し、利用者との会話の中で話題を提供し、興味を示してもらい、心を開いて、本音で話してもらっている。また、表現できない利用者とは、職員が常に寄り添い、言葉かけしながら、表情や独り言を察知し、利用者の思いや意向に近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを利用する前の生活歴や環境について把握し、サービスについても努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に応じた一日の過ごし方等把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については担当職員、本人、家族、関係者とできるだけ話し合い作成している。	利用者や家族と、出来るだけ話し合う機会を多く設け、意見、要望、悩み、心配事等を聴き取り、担当者会議で話し合い、利用者や家族の思いを反映した介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、主治医とも連携し、家族と相談しながら、介護計画の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報は必ず共有し次回の介護計画に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた柔軟な支援をしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに応じた支援で暮らしを楽しめるようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重しできるだけ適切な希望にあった医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を聴き取り、入居前からのかかりつけ医と、2週間ごとの往診が出来る提携医を選択してもらっている。訪問看護や歯科医も取り入れ、24時間、利用者や家族が、安心出来る医療連携体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問している医療関係者に日常の情報を伝えて適切な医療が受けられるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	居宅療養管理の医師、看護師との情報交換を行っており関係づくりに努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、家族、親戚ともに話し合い方針について早い段階から共有している。	ターミナルケアについて、入居時に利用者や家族と話し合い、希望を聴きとっている。利用者の重度化に伴い、家族と緊密に連絡を取り合い、主治医も交えて、今後の介護の方針を話し合い、利用者にとって最善の方法を取り、出来るだけホームで、暮らせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時や事故発生時の対応については出来るわけではなく、今後の訓練によって一人でも多くの職員が対応できるようにしていきたい。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については職員の知識、地域との協力関係がまだまだ遅れている。現在は避難訓練を定期的に行い職員の自覚と地域との協力関係を築く努力をしている。	消防署の参加を得て、避難訓練を実施し、非常時に備え、利用者を迅速に安全な場所へ避難させる努力をしている。職員の災害に対する意識と、マニュアル化が進んでいないので、地域住民の協力要請や協力の内容も、マニュアル化し利用者を安全に救助出来る体制を整えている。	自衛防災組織による、夜間想定での避難訓練を実施して、夜勤者3人で、27人の利用者を安全に避難させる体制を確立し、職員の避難訓練に対する意識を自覚させ、迅速な誘導の実施と地域住民の協力と、参加を得ることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や誇りに対してまだまだ全員が対応できていない。	職員の介護力や意識について、格差があるので、研修会や、勉強会を頻繁に開き、職員の質の向上に努め、利用者のプライドや羞恥心について、利用者一人ひとりの状態に合わせて、介護していくことを学び、利用者職員が、信頼関係を築いていくことを検討している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が希望を表せたり自己決定できる人は支援できるが大部分の利用者が表出できていない。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースで過ごしていただいている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援はできているし尊重している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事をし、色々な話をしながら楽しんでいる。片付けや食器のふき取りについては出来る人にはしてもらっている。	厨房で作る料理を、利用者の残存能力に合わせ、配膳や下膳をして貰い、同じテーブルに利用者と職員が座り、楽しそうに会話をしながらの、食事風景である。また、利用者の嗜好を聴いて、よりおいしく食事するための支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた量、栄養、バランスについて支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については本人の力に応じて毎食後できている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のパターンを理解しその人に合わせた支援を行っている。	利用者の排泄チェック表を把握した職員は、利用者に早めの声掛けをし、トイレ誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援を行っている。夜間も利用者に声掛けし、オムツの使用軽減に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを毎日行い働きかけに取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どちらかというと職員の都合で入浴を決めている日が多い。今後は希望やタイミングについても楽しめるようにしたい。	入浴は、利用者の楽しみの一つであり、希望を優先した入浴の支援に取り組むことを検討している。楽しい入浴を目指すには、職員の意識とやる気が大切で、今後の課題として取り組んでいる。また、入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声掛けし、無理強しない支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう、休息できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援について理解しており、症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については限られているがその他は出来るだけ支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿っての外出支援はあまり出来ていない。今後は地域、家族との協力のもと支援していきたい。	利用者の重度化と、職員の勤務体制により、外出の支援が少なくなる場合があり、個別対応で、利用者の要望を聴きながら、外出の支援をしている。ホームは街中の利便性の良い場所にあるので、散歩を中心にしながら、買い物等をし、利用者の気分転換に繋げている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員についてはできていない。また利用者個人の理解度にもよる。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの状態もあるが支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間全てに利用者に居心地よく過ごせるよう努力している。	病院を改築し、一部2階建て3ユニットの建物は、家庭的な雰囲気を出すために、利用者職員の手作りの作品を掲示したり、熱帯魚の水槽を玄関に置く等して工夫し、利用者が、一日の大半を過ごすリビングルームには、ソファやテーブルの配置に配慮し、利用者同士が、楽しい暮らしになるように支援している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者にあった居場所の工夫はできている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望にあった部屋作りをしている。	利用者が今まで自宅で使用していた、馴染みの物や家具、テレビ等を家族の協力で、持ち込んでレイアウトしてもらい、利用者の自宅のような雰囲気の中で、利用者は、落ち着いて、自由に暮らせる支援が整っている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に快適に過ごせるよう工夫している。		